

# 下野市立南河内中学校

## 1 学校課題

授業力向上 向上心・学ぶ意欲をもった生徒の育成  
～学び合う生徒・教師集団を目指して～

## 2 研究計画

### (1) 研究のねらい

多様な教科における生徒の「学ぶ姿」を見合い、授業観察の深化に努める。授業観察の継続を生徒理解に活かし、学業指導の充実に努める。

授業実践、授業観察いずれにおいても、生徒の「学ぶ姿」や「自己評価」（振り返り）を授業改善に活かす。

### (2) 計画

時期	研修会	研修内容
4・5月 6月	・研究推進委員会 ・全体研修会 ・教科部会  ・研究授業（職員研修）	○学校課題共有 ・本研究計画の立案・検討 ・学校課題のとらえ方の共通理解 ・研究の方法・進め方の確認・共通理解 ・各教科、領域で研究計画の話し合い ○実践研究
9月	・生徒による授業評価(各自) ・研究授業（職員研修）	・国語科 3年研究授業・授業研究会 理科 3年研究授業・授業研究会 ・生徒アンケートによる授業評価集計結果考察
11月	・研究授業（職員研修）	・S&Uコラボ事業 飯田和明先生 国語科 1年研究授業・授業研究会
12月	・研究授業（職員研修） ・全体研修会（職員研修）	・S&Uコラボ事業 人見久城先生 理科 1年研究授業・授業研究会 ・一人一授業公開
2・3月	・研究授業 ・研究推進委員会	・S&Uコラボ事業 人見久城先生 講話「学力向上、学習意欲、教師力向上」 ・国語科 3年研究授業 ・成果と課題の確認 ・次年度の研究の方向と内容についての検討

## 3 研究内容

### ① 「授業観察」と「授業による提案」による研究

- ・「学び合う」授業とは、どんな授業なのかを授業実践と授業観察から明らかにする。
- ・授業実践を公開する。  
→授業中の生徒の様子（子どものつぶやきや行動、表情など）をできるだけ細かく観察する。  
→参観した教師は、授業の様子を報告し合う。  
→授業観察から参観者は何を学んだか、簡単に言語化し残しておく。
- ・授業の観察とその省察、授業による提案とその省察を積む。

### ② 「学び合い」の研究

#### ア 授業研究会 S&Uコラボ事業の活用

9月9日 1年国語科 理解力一判断して説明する—「鑑賞文を書こう」  
<今後の授業に活かしていきたいこと>

- ・指導のねらいや振り返り、指導過程を明確にすることで、生徒の学習の方向性がはっきりす

ることが再認識された。今後も道筋を示す工夫・改善を継続的に研究していくことが大切である。

・国語科では、言語生活を豊かにすることを目指さなければならない。全国学力学習状況調査の結果には、「場面に即した語句・語彙の使用に至らない。」「多様な情報に触れながら、自分の考えを持つことが苦手である。」という傾向が見られた。そのためには、段階や生徒の実態に合わせた「書くこと」の指導を積み重ねていく指導方法を向上させたい。それぞれの資料に書かれていることを正確に理解した上で、感じたことや考えたことを他の人に話したり、文章に書いたりして、新たな気付きや問題意識を明らかにすることが大切である。授業の中で、様々な学習形態を取り入れ、他の友達の意見に触れさせることが必要である。今回の研究授業で実践されたように、自分の意見を付箋紙に書くことで、自分も友達も教師もそれぞれの意見を把握しやすかった。

#### イ 授業研究会 S&U コラボ事業の活用

11月30日 1年理科 なぜ紙コップはつぶれないのだろうか

〈今後の授業に活かしていきたいこと〉

・教師主導型ではなく、教師の言葉より生徒に語らせる場面を作り「おいしいところは生徒に語らせよう」の姿勢で授業を展開すること。

・前時・本時・次時の授業をつなぐ「のりしろ」（今日のまとめをみんなで語らせて次の授業につなげる）を重要視した授業を組み立てること。

#### ③ 一人一授業の実施、同僚性の育成

一人一授業として全員が授業を公開し、学校課題に取り組んだ。各教科・領域の授業において、先輩教員から学ぶ取り組みがあったり、若手教員を育てたり、互いに授業の感想を話し合える場として有効である。同僚の言葉を謙虚に受け止め、自分の指導を反省し、授業改善の手立てとなった。

#### ④ その他

##### ア 「学び合う」には、インプット→アウトプットの繰り返し

全校朝会などで学校長講話を聞いた後や、全校行事で講話や研修を受けた後に、全校生徒にその講話についての感想や考えたことを記述させている。正しく「聴く」姿勢づくりや、正しく聴くことから物事を考える力を身に付けることをねらいとして実施している。

##### イ 「学び合う」には、生徒が自分の考えを安心して発言できる学級づくり

Q-U検査を年2回実施し、学級集団について分析したり、学級生活不満足群の生徒への手立てを支援する。

## 4 本年度の成果と課題

〈研究の成果〉

- ① 研究授業では、生徒のつぶやきや表情の変化を見逃さない姿勢が、日頃の学業指導に活かされた。
- ② 毎時間のねらいを明確にし、振り返りをする中で、授業の改善、工夫にもつながった。
- ③ 一人一授業の実施により、自ら教科指導について検討したり研究したりする機会が増え、教科指導の向上に努めた。
- ④ 同じ教科内での研修では、その教科が得意な人の集団のため、生徒の実態に合わない計画も実施しまいがちである。しかし、他教科の教員の視点は、生徒と同じ視点から意見が出ることもあり参考になった。

〈研究の課題〉

- ① 自分の考えを自分の言葉で説明できる力をつけさせるとともに、教師自身が生徒の発言をコーディネートしながら授業を進められるよう研修を行う。
- ② 一人一授業を行うにあたり、学校の規模から空き時間の教員が少なく、自分の授業との兼ね合いが難しかった。実施方法の改善を図る必要がある。
- ③ 自分の姿を振り返りながら、力量を形成していく、「反省的実践家」としての教師であり続けること。